

カンボジア・ラオス・ベトナム(CLV)開発三角地帯視察ミッション報告

(2009年5月17日-24日)



チャム・プラシド大臣表敬訪問



商業省でのブリーフィング

日本アセアンセンターは、2009年5月17日から24日までカンボジア・ラオス・ベトナム(CLV)開発三角地帯視察ミッションを派遣しました。本ミッションでは、カンボジア・ラオス・ベトナムで、最も開発が遅れていて、あまり知られていない開発三角地帯を陸路で1,230km 走行し、カンボジア・ラオス国境及びカンボジア・ベトナム国境を通過して、同地域のインフラ状況、観光・投資の可能性を視察するとともに、各国政府より同地域の開発計画につき説明を受けました。同ミッションには、日本の企業及び報道関係者11名、3カ国の開発三角地帯のコーディネーター(カンボジア商業省、ラオス外務省、ベトナム計画投資省)3名の計14名の参加がありました。

(1) 開発三角地帯は、カンボジア、ラオス、ベトナム(CLV)の3カ国の国境の山岳地帯にあたる地域で、2004年11月の3カ国の首脳会議において同地域における経済成長、貧困削減を目的に設立されました。開発三角地帯は、カンボジア(モンドルキリ、ラタナキリ、スタウンレン)、ラオス(アタプー、サラワク、セコン)、ベトナム(ダクラク、ダクノン、ザーライ、コントム)の10省から構成される地域で、総面積は、111,021m²、人口は4百万人です。開発三角地帯は、最も開発が遅れている地域ですが、天然資源や豊かな自然を誇る投資・観光先としての潜在性の高い地域です。カンボジア、ラオス、ベトナムの3カ国は、同地域の開発と投資を促進しており、日本政府も同地域に25億円以上の協力案件を実施予定にしています。



ベトナム・プレイク省でのブリーフィング



ラオス・パクセ省でのブリーフィング

(2)カンボジア中央部のクラチェ州のメコン川には、川イルカ(イラワジ・イルカ)が生息しており、小さな船でドルフィン・ウォッチングをすることができます。カンボジア北東部でベトナムとラオス国境と接しているラタナキリには、4000年前の火山活動によりできたヤックロム湖という、静かで落ち着いた美しい湖があり、地元の人々の憩いの場となっています。ラオス最南部、カンボジアとの国境に流れるメコン川には、島々が点在しており、4000の島という観光地となっています。そのなかでもコーンの滝は、ラオス最大にして、メコン川で最も大きな滝で、水量が多く、迫力があります。カンボジア・ラオス・ベトナムの開発三角地帯付近には、手付かずの豊かで美しい観光資源があります。今後、インフラがさらに整備されれば、天然資源およびエコ・ツーリズムなどへの投資のポテンシャルは高いと思われます。



カンボジアのドルフィン・ウォッチング



ラオスのコーンの滝